

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703022
法人名	医療法人 権頭クリニック
事業所名	グループホームもやい
所在地	福岡県北九州市八幡西区竹末1丁目10-15
自己評価作成日	平成24年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月7日	評価結果確定日	平成25年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームもやいは、近隣に公園や小学校等があり、常に子ども達の声が聞こえ、地域交流の拠点として恵まれた環境にあります。「その人らしくあるがために」の理念に沿って、入居者様の今までの生活歴を大切に、その方らしい生活が出来るよう個別性を重視し、入居者様本意のケアに繋がるように、御本人様、御家族様をはじめ、主治医、職員がチームとなり日々のケアに取り組んでいます。一人ひとりの入居者様に「ここで良かった」と思ってもらえるよう質の良いサービスの提供を目指しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム前には大きな公園や小学校があり、近隣には、市民センターや神社が位置している。地域との交流も活発で、自治会や市民センター行事への参加を通じて、積極的に交流を図っている。運営推進会議には、地域からの参加も多数あり、開かれた事業所として、地域との関係性の構築に努めてきた成果とも言える。理念である「その人らしく、あるがために」のもとに、ライフスタイルや関係性の継続を重視した支援が行われている。近隣に同法人の複合施設も開設され、その連携を、質の確保や交流に活かしていくよう取り組んでいるところである。母体となる医療法人も含め、複数の協力医療機関との連携を図り、看護職員3名(夜勤専任1名)も配置されていることから、日々の健康管理や緊急時の対応において、大きな安心感となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくあるがままに」を理念に掲げ、市民センターを拠点とし、地域の行事に参加している。職員は目の届く所に事業所の理念があり、常に目にし、共有して実践につなげている。	理念は目に付きやすい場所に掲示され、職員個々が確認し、「その人らしくあるがままに」を意識した支援となるよう努めている。地域密着型サービスとしての役割を果たすべく、地域との交流や情報発信にも積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、ホームの行事に招待、公園清掃、職場体験の受け入れ等地域の方々と交流を図り、日々の暮らしに繋げている。	地域住民の一員として町内会に加入している。公民館や市民センターより情報提供を受け、清掃活動や地域行事への参加、ふれあい昼食会での交流等を行っている。また、高校生の実習受け入れを通じて、当ホームに就職した職員もいる。そうめん流し等のホーム行事に参加を募ったり、小学校での力士とのふれあい交流会にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい昼食会や公園清掃、地域の行事に参加等により、入居者様と関わりを持って頂き、認知症の方の理解に繋がるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの活動や、これからの取り組み等の報告や、市民センターや自治区会の行事のお誘い等があり、運営推進会議を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、近隣の同法人事業所との合同で、2ヶ月に1回、市民センターにて開催されている。家族代表、町内会長、民生委員、市民センター館長、小学校校長、地域包括支援センター職員、母体医療機関専門職員等、多彩なメンバー構成となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回介護サービス相談員が来訪し、入居者様と面談されている。また、市が主催する研修にも積極的に参加している。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。市の主催する研修には、職員が交代で積極的に参加している。介護サービス相談員が毎月訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体が、身体拘束は絶対にあってはならない事を自覚し、玄関の施錠を含め、知識や理解を深め、意識しケアに取り組んでいる。	研修を実施し、禁止の対象となる具体的な行為や、身体拘束による弊害、悪循環について、職員の共有認識を図っている。また、職員同士のケアについての重要性についても留意している。日中の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体が、高齢者虐待は絶対にあってはならない事を自覚し、職員は見過ごされることがないように意識を持ってケアに努めている。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、外部の研修に参加し、それぞれの職員が制度について十分理解し、御家族様からの問い合わせなどに対し説明できるよう知識を身に付ける努力をしている。	市の主催する研修に参加している。パンフレットを玄関に置き、自由に手に取る事が出来る。また、成年後見制度のポスターも掲示され、制度の啓発に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、生活相談員・管理者が同席し、契約前は重要事項をしっかり説明し、理解して頂くようにしている。わかりにくい部分は、わかりやすいようその都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の意見や要望は、管理者・職員が傾聴している。また、月1回介護サービス相談員にも相談することができる。直接施設長との面談も可能である。	日常の家族来訪時や家族参加の行事、電話連絡等を通じて、家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望の収集に努めている。家族会が設置されている。月1回、市の派遣する介護サービス相談員の受け入れを行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な全体会議の中で情報交換をし、必要に応じて施設長へ報告し、運営に反映している。	ミーティングや月例会議を通じて、職員意見の収集に努め、事案によっては管理者会議等を通じて検討を行い、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて施設長と一人ひとりの職員と面談を行い、想いや悩みを相談出来るよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の性別、年齢に関係なく採用している。内部・外部の研修を通して、個々の能力を発揮できるよう配慮に努めている。	人間性ややる気を重視した採用を行い、年齢や性別による排除は行わないようにしている。ベテラン職員の指導のもと、新人研修カリキュラムを充実させながら、職員育成に取り組んでいるところである。研修参加に向けた費用のサポートや勤務調整を行いながら、全体でのレベルアップに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	積極的に内部・外部研修に参加し、認知症ケアについて職員会議を通して理解・認識を深めながら取り組んでいる。	市の主催する研修に参加して、研修に参加した者が講師役となり、伝達講習を行っている。また、関連施設では、外部講師を招き、セミナーを開催しており、様々な視点から、人権教育、啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や段階に応じて外部研修に参加し、知識・技術を発揮できるよう配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事により、他同業者と交流することができる。また、同一法人のグループホームの運営推進会議へ定期的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は御本人様と面談を行い、不安に思う事や困っている事に耳を傾け、入居後も安心して暮らせるようケアプランにも思い等を反映している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み予約時の見学の際から、御家族様の不安に思う事や困っている事に耳を傾け、入居後も御家族様と密にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と御家族様が必要としている支援を確認した上で、事業所内の可能なサービスを説明し、ご本人にあったサービスを提供できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は御本人と一緒に料理を作ったり、掃除をしたり、また、御本人から職員へ教わるが多々あり、学ぶことが多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人にとって御家族の存在は大きく、可能な限り面会や行事に参加して頂き、御本人の支えになって頂くようお願いしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時、来園・面会できるようになっており、また、昔からされていた事や馴染みの場所に行ったりして、関係が途切れないように支援している。	家族と連携し、馴染みの美容院を利用したり、毎月、教会に礼拝に出向く方もいる。家族や友人の来訪を歓迎している。	

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が控えめな方やコミュニケーションが困難な方には、状況に応じて職員が間に入って関係を築けるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等でお会いする機会がある際は、御本人の様子をうかがったり、直接お会いする。また、外部で出会った際は声掛けをし、経過をうかがったり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で御本人の希望や意向を傾聴し、また、担当者会議にも参加していただき、思いを把握し、ケアプランや会議で検討している。	日々の様子や会話の中から、また、入浴時等の個別対応の中から、思いや意向の把握に努めている。毎朝のトランプゲームが日課となっており、観察や情報収集の機会ともなっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族様との日々のコミュニケーションを通して情報収集を行い、次のケアへと繋げている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中でその方のペースに合わせて、その人らしくあるがままに生活できるよう見守り、ケアに努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族のご希望・ご要望を聞き、また、医療面から主治医より意見を頂き、担当者会議を通して介護計画の作成をしている。	担当者会議には看護師も同席しており、医師からの意見書も用意されている。本人、家族からの意見を踏まえ、毎月のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認や見直しの必要性について確認を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を介護記録に記入している。又、会議にて情報を共有し、ケアプランの見直しを行い、次に繋げている。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望される方には同一法人のデイサービスを利用して頂いたり、音楽会等の催し事に参加して頂いている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方に合わせた地域資源を活用して、安全で豊かな暮らしができるように努めている。例えば、運営推進会議の参加・市民センターでのふれあい昼食会、買い物に行きたい方は近隣のスーパーへ、などの支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明し、御家族了承の上、母体となる医療法人がかかりつけ医として適切な医療を行っている。他科受診の場合などは、御家族の了承を得て受診している。	入居時に、かかりつけ医の確認を行い、近隣にある母体医療法人を協力医療機関として、連携体制を確立している。他科受診の際には、家族や職員が連携している。複数の協力医療機関との連携や、夜間専任の看護師もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在籍している。日常の状態で気づきや気になることがあれば、介護職員から看護職員へ報告、連絡、相談を行い、医師との連絡を密に行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より御家族の了承のもと、医療機関へ面会に行き、状態の把握に努めている。早期退院を御家族とともに相談し、安心して退院できるように受け入れ体制を整えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について御本人及び御家族に、定期的に意思確認を行っている。終末期の段階においては主治医・御本人・御家族により面会を行い、話し合いを行っている。	看取りに関する指針や確認書を整備し、入居時の説明を行っている。また、3カ月ごとに、事前確認書による意思確認を行っている。状況の変化に伴い、家族や医師とともに話し合いを行い、方針の共有に努めている。ターミナルケアに関する研修も実施されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、急変時の対応のシュミレーションなどの勉強会を行っている。消防署に依頼し、普通救命講習に参加して実践力を身に付けている。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、地域家族に参加を呼びかけ訓練を行っている。避難訓練は消防署。防火設備の業者の指導により行っている。	年2回、夜間も想定して避難訓練を実施している。訓練日には、道路側にあるベランダに、訓練実施の案内を掲示し、近隣に知らせている。当日は、近隣の方や民生委員の方にも協力していただいている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように全職員が言葉かけや対応を行っている。個人情報の取り扱いには十分気を付ける様に周知徹底している。	援助が必要な場合にも、入居者の気持ちに配慮し、さりげない関わりを心掛けている。特に排泄ケアの際には、十分な配慮に努めている。年長者への敬意を忘れず、馴れ合いとならないよう、職員間で意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話をしっかり聞いて意思を尊重している。職員は各入居者に合わせて声掛けをし、自己決定ができるような環境作りをして支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事やレクレーションへの参加は強制ではなく、その方の希望やペースに合わせて、理念である「その人らしくあるがままに」支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々好きな服を選んでいただけるように工夫している。選ぶことが困難な方は、好みを取り入れる様配慮している。月に一度理容師が訪問し、好きな髪型にされている。又、外部の美容室に行かれることもある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に行って食材を選んで頂いている。また、下ごしらえもお手伝いいただき、野菜を切るなど、個々の得意な事をしていただいている。メニューを作る際は入居者の方と話し合ったものを取り入れている。	調理担当者が希望を取り入れ、バランスのとれた献立を作成している。買い物への同行や下ごしらえ、盛り付け等に力を発揮していただいている。手作りのランチョンマットを用い、職員とともに食事中も和やかな会話が續いていた。誕生日には手作りのケーキでお祝いしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量や食事形態を提供し、摂取量は毎日記録している。入居者の嚥下状態が悪くなった場合も、主治医と相談しながら個々の食事状況に対応している。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。個々の力に応じて、できない所は一部介助を行っている。又、必要な方は訪問歯科受診も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個別の排泄パターン、習慣の把握に努め、個々に応じたトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表でパターンの把握に努め、適宜にトイレに誘導している。医療的なケアが必要な方には、看護師が対応している。排泄のリズムを重視し、食事や水分量への配慮を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維のものを取り入れて予防している。便秘になった場合は主治医と相談しながら改善に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたいときの希望に応じて入浴できるようにしている。入浴時はゆっくりとした時間を共有し、楽しみや日ごろ気付かない思いを職員が感じる大切な時間である。	基本的な入浴スケジュールはあるが、希望があれば、毎日の入浴が可能である。午前や午後の希望や、好みのシャンプーを使用する方等、柔軟に対応している。入浴剤を使用したり、声掛けをして、楽しく入浴できる様に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自室やリビングのソファで休息をとって頂き、夜間は居室の室温や入眠状況の確認を行い、安心して良眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容、服薬方法を理解しており、確実に服用できるように職員間で確認している。症状の変化があった際は随時主治医に報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレクリエーション、買い物などその方の楽しみや役割を行えるよう工夫している。又、外出する機会を作り、季節を感じていただけるよう支援している。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や行きたい時に出かけられるよう工夫している。御家族様の希望があれば、散歩、ドライブ、外食ができるよう支援している。	ホーム前の公園や、徒歩数分の小学校傍の川まで、鯉を眺めに散歩に出かけている。関連施設で毎月開催される「ふれあい音楽祭」にも参加している。嗜好品の買い物や、スイーツを楽しみに出掛ける機会もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様が希望する使い道で金銭を扱う能力を維持できるよう工夫している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望があれば、いつでも電話できる体制である。また、御家族や友人などからの電話も自由に繋げている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、居心地の良い空間づくりをしている。また、季節の花を飾ったり、外の景色を眺め季節感を味わえるよう工夫している。	懐かしい日本家屋を思わせる室内空間は、リビングの畳スペースや居室の引き戸、天井の梁等、「和」の雰囲気包まれている。大きな窓が設置され、明るく、ホーム前にある公園や通りの様子を眺めることができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように、ソファやテーブルの配置を職員間で話し合い、工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で実際使用していた思い出深いものを持参していただき、使い慣れた物、見慣れた物を利用し、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	自宅で使用していた物を、持って来ていただいている。居室入口は襖仕様となっており、全室、畳敷きで、窓には障子が設置されている。ベットを使用する方、布団を敷く方と、希望や状況、生活習慣に応じて対応している。個別の暮らしが反映された居室作りとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ内、脱衣所等、安全かつ自立を目的とした手すりを設け、入居者の状態に応じて見守りを行い、できる限りご自分の力で行っていただけるように対応している。		